## ０　このデータについて

リフローの書籍データは、

C:\Users\tomoki.kawakubo\050にて

作業を行う。

このファイルver02はフロー運用の観点から、

段取り手順のみの記述のみを心掛けた。

まとめる前のフロー・スクリプトに落とし込む前の詳細と検討は、

Ver01に羅列的に記述している。

今後、01の内容を分かりやすく使いやすく理屈立てて

02に記載していくことを心掛けたい。

## １　書誌データ

### ■場所

［01\_書誌作成］

### ■手順

・［01\_作成用\_書誌.xlsx］を使用。

→　支給の書誌データ（あれば）を元に、リストに落とし込み

（内容） ・基本情報

・右開き／左開き

・目次の有無

・

・csv保存で［05\_assemble］に配置。

・BOMが入っていることあり、気を付ける。（「名前を付けて保存」で確認）

・2025/4/23時点

［01\_作成用\_書誌\_ver01.xlsx］に列を加えた［01\_作成用\_書誌\_ver02.xlsx］がある。

　注釈の扱いについての項目列を増やし、今後の予備に列を加えている。

　マニュアルとスクリプト動作を確認しながらなので、確定の確信を持つにはまだ検証したい。

　また、列番号も変わるので、スクリプトの改修が必要。未着手。

## ２　画像準備

以下、「InDesign」章から抜粋、前置き。

編集中

### ▼前提

　　前付画像

・支給かPDFから作成

・画像名は固定で、

・カバー 「i-cover.jpg」（主に、支給のあるもの流用）

・本扉 「i-titlepage.jpg」

・奥付 「i-colophon.jpg」（不使用？？）

　　本文画像

支給PDF使用を使用

無ければInDesignからPDF作成

・PDFのファイル名を［＿＿］に変更する（固定名）。 （「i-」はダメかな・・）

### ▼作成方法

・PhotoshpでPDFを開く。

・画像とするべきページを選択し、版型サイズで一律のサイズで抽出。（暫定で300dpi）

・photoshop抽出時の保存形式がpsd、ノンブルがファイル名になっている

→　例：書き出し用-120.psd

→　jpg、72dpiに。

→　リネームで、以下例

・i-022-01.jpg

・i-014-01.jpg

・i-014-02.jpg （三桁はInDesign本文ノンブル、二桁はそのページ中の画像ナンバリング）

あるいは（ページにつき画像1枚の場合）

・i-022.jpg

・i-014.jpg

### ▼作成後

・［05\_assemble］－［image\_fixity］に、

・i-cover.jpg

・i-titlepage.jpg

　［05\_assemble］－［image］に、本文ページ画像

・i-022-01.jpg

・i-014-01.jpg

・i-014-02.jpg （三桁はInDesign本文ノンブル、二桁はそのページ中の画像ナンバリング）

　を格納。

## ３　InDesign

### ■場所

［00\_素材］にて

### ■前提

・作業用InDesignデータのファイル名を固定［**source**］にする。

・章扉

InDesignデータの章扉がテキストベースであるなら、イキで行くのが良いようだ。

ハイパーリンクのiD自動付与等の都合がある。

→　しかるのち、html上で画像に差し替えるのもよし。

→　版元要望次第か？

→　技術的にも未確認

（画像Altタグに章名等のテキストを乗せ換える？）

### ■作業手順

#### ①　ノンブルや柱のテキストボックスを削除する。

・マスターページでオーバーライドとかする前に。

（マスターページでそれが全て可能かはわからない）

・本文ページを見て、同、削除

#### ②　目次と本体を見て、構造（階層）を判断

#### ③　必要なスタイルを付ける（目次\_章・目次\_節など、階層によって別名に）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| InDesignスタイル名 | 説明 | epub側対応スタイル | 応用（例） |
| h1\_章タイトル |  | h1 |  |
| h2\_節タイトル |  | H2 |  |
| h3\_項タイトル |  | H3 |  |
| h4\_目タイトル |  | H4 |  |
| noteref（文字スタイル） | 注釈（本文中番号等） | noteref |  |
| note（段落スタイル） | 注釈本文 | note |  |
| 枠 |  | k-solid |  |
| 段落字下げ（左インデント）  イデ1  イデ2  イデ2・5 |  | start-1em  start-2em  start-2em50 |  |
| ぶら下がり  ブラ1  ブラ2  ブラ2・5 |  | h-indent-1em  h-indent-2em  h-indent-2em50 | 例：イデ1ブラ1  **<**div class=" start-1em h-indent-1em"**>**  例：  **<**div class="k-solid h-indent-1em"**>** |
| 行下揃え |  | align-right |  |
| 行センター |  | align-center |  |

●ほか

・スタイルシートの参考　<file:///C:/Users/tomoki.kawakubo/050/css_reference.html>　（ローカル・流用自作）

注：スタイル付けをこぼすと、後が面倒

**・デザイン的に「第〇章」などが別テキストボックスに分かれている場合、テキストをコピペして一緒にするが良！**

#### ④　目次のファイル内リンクを作成

・ノンブルのついた目次行のみ、以下リンクを作成。

→ ・本文テキストを選択し、パネル［ハイパーリンク］－［新規ハイパーリンク先］でアンカー登録、

・目次テキストを選択し、メニュー［書式］（パネル［ハイパーリンク］でも可）

［ハイパーリンクと相互参照］、でリンクを作成（テキスト／ページ）

・目次行のノンブル記載を削除**← 忘れると後が面倒**

**・このリンクにヌケがあると、後でややこしく全部やり直しになるので、要注意、再チェック！！**

**・不要なテキストボックスは削除しておく**

**追加！**

アキ行を、html書き出し時に拾われるアキ行にする

改行だけの行が、html出力されないので、検索置換で空白スペース入りの改行とする。

　→　^\r（正規表現にチェック入れ）　→　（空白スペース）\r

　　　（目視しかないか）

InDesign機能で「^p^p」→「^p　^p」で試み。（0319）

#### ⑤　画像作成と、画像ページ作成

・支給PDF使用か、無ければInDesignからPDF作成し、Photoshpで開く。

・画像とするべきページを選択し、版型サイズで一律のサイズで抽出。（暫定で300dpi）

・photoshop抽出時の保存形式がpsd、ノンブルがファイル名になっている

→　例：書き出し用-120.psd

→　jpg、72dpiに。

→　1次リネームで、頭に新規連番3桁、末尾はノンブルに。

→　2次リネームで、「i-」付のアタマ連番だけ残し。例：i-005.jpg

・画像の中のノンブルは確認用に残す。　→　後で削除、画像リンク更新。

要注意！

・章・節レベルの見出しも画像でよいが、版面にテキストを残すようにする。

→　ミスで残せなかった場合は、目次から取ってくる。

→　（疑問）あるいはテキストベースで進行、調整html時に画像ページとする？

→　画像タグが入らない

・リネームjpg画像を、InDesign該当ページに貼り込み

画像枠を作成、必要ページに配置、［配置］で画像選択してペースト

→　①　画像のファイル名を目安に貼り込み、旧ページのオブジェクト除去

→　②　画像フォルダを移動、リンクエラーを利用し、②画像の連番目安に差し替え。

#### ⑥　htmlで書き出し

［ファイル］－［書き出し］

→　ファイル名を、［source.html］とし、［03\_setup］に置く。

→　リソースフォルダ［source-web-resources］を［03\_setup］に置く。

|  |  |
| --- | --- |
| グラフィカル ユーザー インターフェイス, アプリケーション  自動的に生成された説明  **→　ローカルオーバーライドを保持**  **のチェックを外したほうがシンプルかと思える** | InDesignのHTML書き出しオプションの「CSSを生成」の下にある「ローカルオーバーライドを保持」のチェックボックスは、書き出し時にCSSがどのように生成されるかに影響します。以下にその違いを説明します。  **ローカルオーバーライドを保持 （チェックを入れる場合）**   * **効果:** 個々の段落や文字に適用されたスタイルオーバーライド（手動で行ったスタイル変更）がCSSとして保存されます。 * **例:** 例えば、ある段落にスタイルが適用されていて、その段落の一部の文字色を手動で変更した場合、その変更が反映されたCSSが生成され、HTMLでもその変更が適用されます。 * **結果:** より細かいスタイリングがHTMLに反映されますが、CSSが複雑になる可能性があります。   **ローカルオーバーライドを保持 （チェックを外す場合）**   * **効果:** 手動で行ったスタイル変更（オーバーライド）は無視され、InDesignで定義されたスタイルシートのみがCSSとして保存されます。 * **例:** 先ほどと同じ例で、手動で文字色を変更していても、CSSにはその変更が含まれず、定義されたスタイルシートに基づいたスタイルが適用されます。 * **結果:** CSSがシンプルになり、一貫性が保たれますが、手動の変更が反映されません。   このオプションをどう設定するかは、書き出し後のHTMLやCSSの管理のしやすさと、デザインの正確な反映をどの程度重視するかによって決まります。 |

### ▼未解決／未処理

go →　InDesign上で検索・テキストに縦中横の処置？（出力してタグ（半角英数字）が付く前に）

段落設定で［自動縦中横設定］（数値）を使っている　→　<span class="\_idGenCharOverride-1">が付く

段落設定で［縦中横設定］にチェックを入れていたら　→　クラスは付かない

文字選択で［縦中横］にチェックを入れていたら　→　<span class="\_idGenCharOverride-1">が付く

NG →　html上で、正規表現で英数字の検索・置換？（あるいはタグ抜きテキストで）

未 ・テキストボックスまたはスタイルによって英数字の回転をしている。そこはどうするか？

## ４　htmlの加工・調整（本体）

### ■前提

・vscode使用。ワークスペース作成。拡張機能を諸々使用。

・ライブ機能で、縦書きを目視しながら制作可能。

　（それを生かすため、制作ファイルにはテンプレ的にcss縦書きヘッダーを付加している）

### ■作業手順

#### ▼①　［01\_convert\_target.pl］でsource.html（InDesign書き出し名・固定）を自動加工しベースとする。

・場所：［03\_setup］

（動作結果）

・同階層に［arrange\_target.xhtml］が出力される。（調整用の本体）　→　［04\_arrange］に手動で移動させる

・同階層に［backup\_target.xhtml］が出力される。（確認参照用）

・同階層に［arrange\_toc.xhtml］が出力される。

・書誌の［目次］列が［yes］の場合のみ。

・［03\_setup］－［toolbox］の［template\_mokuji\_header.txt］をリネームして配置しているだけ

・同階層に［arrange\_colophon.xhtml］が出力される。

・［03\_setup］－［toolbox］の［template\_okuduke\_header.txt］をリネームして配置しているだけ

・［04\_arrange］に変換レポート［report.txt］が出力される。

（処理内容）

・source.htmlに対し、 本ドキュメントVer01で検討した調整内容の多く（確定的な要素）を、スクリプトで処理。

・二桁英数字に tcy を付加

・本文中の半角スペースを検索・置換

・一桁英数字を全角英数字に変換

（次に向けて）

・［04\_arrange］に、［arrange\_target.xhtml］と［arrange\_toc.xhtml］を手動で移動させ、目視・手動調整を加える。

（ファイル移動は、スクリプト再出力の際の上書きを避けるため）

#### ▼②　［arrange\_target.xhtml］（本体）を目視／手動調整

・場所：［04\_arrange］

（手動内容）

・［03\_setup］から移動した［arrange\_target.xhtml］を、同階層に出力の変換レポート［report.txt］を見てチェック。

（チェック内容（vscode機能使用）） ・不要なタグを削除

・重層のタグの入れ子不具合チェック

・cssのclass付記で見た目調整

・

・調整が終わった段階で、目次があるならcutして［arrange\_toc.xhtml］の下部にペースト

#### ▼③　［02\_convert\_pre\_navi\_05.pl］を起動。Navigation作成

・場所：同

（動作内容）

・［arrange\_toc.xhtml］を読み取り、不要タグ等を取り去り、リストタグを付与した［arrange\_navigation.xhtml］が出力される。

・［arrange\_toc.xhtml］が存在しなければ、［05\_assemble］に［navigation-documents\_no\_toc.xhtml］が出力される（定型で確認不要のため）

（shosiで目次有無を判断ではなく、上記ファイルの有無を判断）

・［arrange\_navigation.xhtml］を目視チェック、不要の残りを削除等。

#### ▼④　［03\_adjust\_link.pl］を起動し注釈リンクを調整

・場所：同

（動作内容）

・注釈リンクを補完。（リンクと番号付け）

・名前が［adjust\_link\_target.xhtml］に変わる

・本文中に注釈リンクがなくてもスクリプト使用は必須。（後の処理が、変更となるファイル名をターゲットにしている）

#### ▼⑤　［04\_assenble\_04.pl］を起動し、オーサリングに必要なhtmlを集める

・場所：［05\_assemble］

（動作結果）

以下のように、次のスクリプトに合わせリネームと最終調整

・［adjust\_link\_target.xhtml］l］→［target.xhtml］（本体）

・［arrange\_annotation.xhtml］→［go\_annotation.xhtml］（［arrange\_annotation.xhtml］が在れば）

・［arrange\_colophon.xhtml］→［go\_colophon.xhtml］

・［arrange\_navigation.xhtml］→［go\_navigation.xhtml］

または③の段階で目次なしの場合、［navigation-documents\_no\_toc.xhtml］が出力されている。

・［arrange\_toc.xhtml］→［go\_toc.xhtml］

（目次ナシの時、①の段階からナシ）

・shosi.csv

#### ▼⑥　［05\_authoring\_43.pl］でepub用xhtmlフォルダを出力

・場所：［06\_output］

#### ▼⑦　［06\_check\_xhtml.pl］でxhtmlフォルダ内xhtmlをチェック

・タグの開始と閉じのカウントで不具合検出

#### ▼⑧　xhtmlのビルド

・場所：［070\_build］

・ビルド専用ディレクトリに、xhtmlフォルダをコピー

・［ePubPack］によるビルド

・［EPUB Checker］による検証

・［050］－［10\_ePubビルド済］にデータを格納

## ６　各スクリプトの挙動

拡張子の前の「\_数字」は、スクリプトのversion（変動アリ）

### 01\_convert\_target\_21.pl

・［03\_setup ］－［source.html］のHTMLタグや属性を正規表現で置換。

・目次、注釈、奥付テンプレートファイルをコピーしてリネーム。

・二桁英数字に tcy を付加、一桁英数字を全角に変換、本文中の半角スペースを置換。

・変換内容をログファイルに記録。

・変換後のHTMLを次の処理用とバックアップの2つの出力ファイルに保存。

・［arrange\_target.xhtml］（加工用の本体html）

・［backup\_target.xhtml］（バックアップ、確認要）

・［report.txt］（変換内容のチェック用。次の調整で使うため［04\_arrange］に出力される。

### 02\_convert\_pre\_navi\_05.pl

・［arrange\_target.xhtml］から切り出した目次部分［arrange\_toc.xhtml］を、navigation用ファイルに整形する。

・目次ファイルを読み込み、リンク部分を抽出・整形し、新しいHTMLファイルを生成。

・<a>タグ内のリンクとテキストを抽出。

・不要なタグや属性を削除。

・整形されたリンクを <li> タグでラップし、目次リストを生成。

・変換後の目次を2つの出力ファイルに保存。

・［arrange\_navigation.xhtml］（最終的にepub内［navigation-documents.xhtml］になる）

・［03\_setup］－［backup\_navigation.xhtml］（変換直後の保存を確認用に）

・入力ファイルが存在しない（目次が無い）場合、対応するテンプレートファイルをコピーして終了。

### 03\_adjust\_link\_05.pl

・［04\_arrange］－［［arrange\_target.xhtml］に対し、以下作用。

・<span class="noteref"> を <a class="noteref"> に変換し、リンクID（順番）を付与。

・<p class="note"> を <a class="note"> に変換し、リンクID（順番）を付与。

・タイトルを変更し、行頭のタブや余分なスペースを削除。

・変換後のHTMLを出力ファイルに保存。

・上記内容を反映した本体ファイルを［adjust\_link\_target.xhtml］として保存。

### 04\_assenble\_04.pl

・複数のHTMLファイルを調整・リネームし、［05\_assemble］にepubオーサリング用最終ファイルとして集める。

・［04\_arrange］内の各htmlファイル（目次、ナビゲーション、注釈、奥付など）を読み込み、整形して出力。

・コメントや不要な空行、タブを削除。

・リンク先名を統一（例: adjust\_link\_target.xhtml → target.xhtml）。

・サブルーチンを使用して目次ファイルを処理し、テンプレート部分をスキップ。

・必要に応じて脚注ファイルを生成。

### 05\_authoring\_43.pl

・［06\_output］にEPUBファイルの出力。HTMLファイルの分割・整形・テンプレート適用。

・素材の取り込み: 必要なHTMLやCSVファイルを読み込み、書誌情報を解析。

・フォルダ・ファイル生成: 出力フォルダや必要なテンプレートファイルをコピー。

・HTML分割: target.xhtml を分割し、テンプレートを適用して個別のXHTMLファイルを生成。

・目次生成: navigation-documents.xhtml と p-toc.xhtml を生成し、リンクを適切に置換。

・注釈処理: 注釈リンクを解析し、単ページ注釈ファイルを生成。

・OPF生成: EPUBのメタデータを含む standard.opf を生成。

・ログ出力: 処理内容をログファイルに記録。

### 06\_check\_xhtml.pl

・出力したepub用フォルダ内xhtmlファイルをチェックし、<div>タグの開閉数が一致しているかを確認。

・ファイル探索: 指定ディレクトリ内の.xhtmlファイルを再帰的に検索。

・タグカウント: 各ファイル内の<div>タグと</div>タグの数をカウント。

・ログ出力: 開閉数が一致しているかどうかをログファイルに記録。

## ７　TIPS・etc…

### ＜Vscodeのショートカット＞

・複数タグ一括選択　ctrl ＋ alt ＋ shift ＋ E

・class等の短縮名 bpp　→　<p><br /></p>

tcy　→　<span class="tcy">　（</span>はvscode上で配置の際に補完される）

ruby　→　<ruby></ruby>

### ＜制作のコツ＞

・InDesign段階

文字スタイルは削除

・「注釈」は、「ref」の段階で、div括りをしたほうがいい。

“

### ■書籍として気を付けること

・熟語ルビとなっているか（原本データがそうでない肩付きルビの場合がある）モノルビかグループルビか。指定は。

## ８　未整理

### ■未解決

ok 縦組み中の横書きページの手動／自動化が考えられていない。

済 目次がないパターンをまだ考えていない

書誌にはその項目アリ、機能化してない？？

目次を抜いた位置の記述、それをスクリプトでどう扱うか、

目次と前書きや扉などの位置関係をどうソースで指示記述とするか。

あるいは**opf時点で手動（tocのhtml記述行をドラッグ）で位置を変えることにするか**

目次は無くてもnavigationファイルは要るらしい

半済 著者紹介ページの処理をどうするか

版元定型とか、奥付一体とかあるし・・

→　テンプレか支給。

未 文字処理（作字も）

ゼロオー、音引き、ウムラウト、ダーシ間詰め、

ルビ処理

文字資料読み（電書協の）、整理要。

半済 編集／スタッフのページを

→　支給か、指定に依ることにする。

半済 奥付ページの処理をどうするか  
p-colophone.xhtml

現状、まだopfにi-colophone.jpgが入っている（p-colophone.xhtmlには読み込んでいない）

正直、テンプレをもらってリアクション

未 章（例えば）を左始まりにするかしないか。

・指示があるか、指示確認機会があるか、制作判断か

制作判断なら、何をもって判断とするか、

・機能（手動／自動）

自動の場合、それを基本とするかしないか。

何に依って切り替えるか。（書誌？）

済 （カドカワ仕様書）罫線（ダッシュ、二角ダーシ、二倍ダーシ）で二角のものは「U+2500（Shift\_JIS：849F）」に統一する。

「U+2015（Shift\_JIS：815C）」は、指定がないかぎり使わない。

### ■必要

・スクリプトとファイル遷移図が必要

作成中。

### ■疑問

・ぶら下げの全角スペースがわりに使われることがあるらしい「&#8194;」は、電書協資料ではどう書かれているか、チェック。

### ■履歴

・1024 1か月触れず、最初からマニュアル参照しつつの再作成。

（画像は前回作成済みを使用）

html書き出しまで、約７時間強かと思われる。